

# 災害とメンタルヘルス ～現場の経験から学ぶこと～ 「こころの健康セミナー」

今回のこころの健康セミナーは、昨年度に引き続き「災害とメンタルヘルス」をテーマとして開催します。

第1部では、石川県立こころの病院院長 北村先生を招き、能登半島地震の現場からみたメンタルヘルスの課題について講演いただきます。第2部では、川崎市に災害が発生した場合に、どのような困難に見舞われるか、どうしたら安心して生活が続けられるか、どのように備えることができるかを一緒に考えます。多くの方のご来場をお待ちしております。

## 第1部

### 講演 能登半島地震の現場からみるメンタルヘルス

講師／北村 立氏

石川県立こころの病院 院長

## 第2部

### シンポジウム 災害に備える

シンポジスト／

柿沼 矩子氏

川崎市認知症ネットワーク 代表

岡崎 重人氏

NPO法人川崎ダルク支援会 理事長

田中 美砂子氏

中部地域生活支援センターはるかぜ 施設長

濟田 由夏氏

中部地域生活支援センターはるかぜ ピアスタッフ

北村 立氏

石川県立こころの病院 院長

進行／

竹島 正

川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター 所長

令和6年 8/9 金

14:00～16:45 (開場13:30)

川崎市コンベンションホール ホールB

川崎市中原区小杉町2丁目276番地1

パークシティ武蔵小杉 ザ ガーデン タワーズイースト2階

定員／会場150名 オンライン200名

■お問い合わせ 川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター

☎044-200-3197

参加費  
無料

オンライン同時開催

## 講師の紹介

### 北村 立氏 石川県立こころの病院 院長

略歴：1987年自治医科大学卒。初期研修ののち、能登北部のへき地診療所の勤務を経て、1992年より石川県立高松病院（現こころの病院）に勤務。2013年より同院の院長を務めている。

今回の震災では、DPAT活動等を通じ、能登の、ひいては石川県全体の精神保健医療福祉体制について、改めて考えさせられた。能登地方は元々精神科の医療資源が乏しく、特に能登北部には精神科病院がないため、入院が必要な患者は七尾市や当院を含む石川中央医療圏に搬送するしかない。症状の重い患者は遠方の病院に長期に入院する傾向があり、彼らは通所・入所施設の少なさも相まって、地元に戻るのが困難である。他方、人や家が密集していないこと、匿名性が低く見知らぬ人がいないこと、住民同士の互助が強いことなどより、発達障害を含む精神障害者や認知症の人でも、行動障害が目立たなければ、地域で生活でき、地域の懐が深いと言える。高齢者は動けるうちは家にいるのが当たり前で、超高齢化のわりに要介護認定率は低く、介護予防事業も盛んでない。当日は、能登の風土や人のくらしを踏まえ、災害に遭った人のいのちと暮らしを支えることとメンタルヘルスについて話したい。また、障害者や高齢者の避難のあり方についても触れたい。

## 参加申し込みについて

以下のお願いについて、ご確認、ご了承いただき、川崎市ホームページからお申込みください。

### 〈お申込みされる方へのお願い〉

- 定員に達し次第、お申込みを締め切らせていただきます。お申込み後に、参加のご希望に沿えない場合は、当方からご連絡させていただきます。
- 感染症や天災などの理由により、やむなく開催を中止する場合がございますので、予めご了承ください。

申込締切 令和6年8月2日(金)

本セミナーの詳細およびお申込みについては、川崎市ホームページからご確認ください

<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000136850.html>

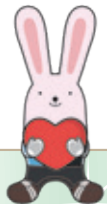
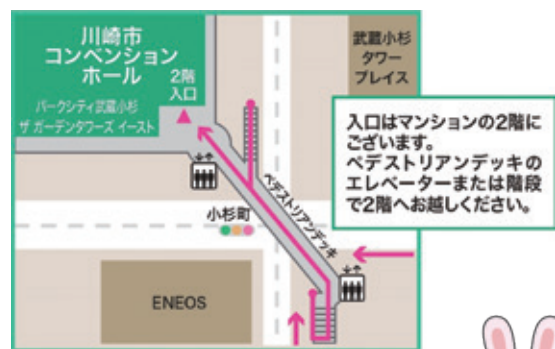


## 会場案内

### 川崎市コンベンションホール

川崎市中原区小杉町2丁目276番地1

パークシティ武蔵小杉 ザ ガーデン タワーズイースト2階



## 「気づいてください！ 体と心の限界サイン」

川崎市自殺対策推進  
キャラクター「うさっぴー」

「九都県市自殺対策キャンペーン」統一標語

首都圏の住民は、通勤・通学等のため都県市を越えて活動していることから、九都県市共同で広域的な自殺対策に取り組んでいます  
埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉県・さいたま市・相模原市

川崎市 ところ

検索

各種相談窓口も  
案内しています



川崎市健康福祉局 総合リハビリテーション推進センター

☎044-200-3197

川崎市